

除草剤 なしで雑草 やっつける

－ 前植生の早刈りとライムギを2回刈りしたメドウフォックステイル防除事例 －

道総研畜産試験場 畜産研究部 飼料生産技術グループ

1. 試験のねらい

強害雑草の1つであるメドウフォックステイル（以下 MFT、図1）は、出穂が早く、開花後22日目頃（6月中旬頃）から種子が成熟するため、道内の一般的なチモシーの刈取り管理では、実生によってまん延します（表1 上段）。MFT のまん延を防ぐためには、成熟した種子をつける前に刈取る管理が重要です。早刈りと除草剤を組み合わせた防除法（表1 中段）が提案されていますが、除草剤を使用できない場合には適用できません。

本報告では、除草剤の代役として秋まきライムギ（以下ライムギ）を導入した耕種的防除法（表1 下段）を現地圃場で検証した事例を紹介します。

2. 試験の方法

実施場所：中川郡池田町・河川敷の MFT 優占草地（A 圃場 ;0.6ha, B 圃場 ;1.0ha）

前植生の早刈りとライムギ播種（2019年）：A, B 圃場ともに1 番草が2019年5月31日、2 番草は1 番草の65日後（8月4日）にそれぞれ収穫しました。8月14日にスタブルカルチおよびロータリーハロで播種床を造成し、9月21日にライムギを播種しました。なお、1 番草の収穫時期が、推奨される早刈り時期（6月中旬）から2週間程早くなり、6月21日時点で再生草から MFT の出穂が見られました。このため、推奨時期に収穫が出来ていた場合を想定して、圃場内の一部で穂を除去する「抜き取り区」を設置しました。

ライムギの2 回刈りと牧草播種（2020年）：ライムギの1 番草を2020年5月30日、2 番草を7月6日にそれぞれ収穫しました。その後、2019年と同じ方法で播種床を造成し、8月19～20日に牧草を播種しました。

牧草播種翌年（2021年）：草地更新後の MFT の出穂本数や冠部被度を調査しました。

3. 成果の概要

- 1) 草地更新翌年（2021年）の MFT 出穂本数は、前植生の早刈りとライムギ2 回刈りの草地更新体系を行った2 圃場の方が経年草地よりも大幅に少なくなりました（表2）。この体系では、MFT を完全に排除することは困難ですが、除草剤を用いない MFT 防除技術として有望であると考えられました。
- 2) 抜き取りを行っていない区は抜き取り区よりも MFT 出穂本数が多くなりました。その原因は、草地更新前年（2019年）の1 番草刈取り時期が早かったことに加え、2 番草の生育日数が40日以上となり、2 番草の刈取りまでに再生草から MFT の発芽能力を有する種子が生産されたと推測されます。
- 3) ライムギ2 回刈りは1、2 番草合わせて582～732kg/10a 程度の乾物収量が確認されたことから、牧草播種当年の粗飼料不足対策になると考えられました（表3）。

4. 留意点

前植生の早刈りとライムギ2 回刈りの草地更新体系の実践にあたっては、ライムギおよび MFT の生育を確認しながら各種作業を適期に行う必要があります。